

バックグランド： 陳旧性橈骨頭脱臼の治療については、依然として異論のあるところで
ある。再脱臼率も高く、術後合併症も多いと報告がある。われわれは、尺骨骨きりが術後
好成績の鍵であると考えている。

方法： 1975 年以来、22 症例に対して手術を行った。橈骨頭の観血的整復を行い、橈骨ま
たは、尺骨の骨きり術を施行した。輪状韌帯の再建も必要に応じて行った。患者の年齢は 4
- 20 歳である。1991 年、我々は治療方法に改善を加え、尺骨を斜め骨きりして、延長およ
び軽度屈曲変形させて、プレート固定を行う方法をとった。必要に応じて骨移植も追加し
た。術後はギプス固定を 2-4 週おこなった。9 例に対してこの改良法を行った。

結果： 外傷から再建術までの期間は、平均 10 ヶ月であった。重篤な合併症はなかった。
1991 年以前に治療を受けた 13 例では、4 例整復良好であったが、7 例再脱臼し、7 例は回
内外制限が生じた。1991 年以降の 9 例では、7 例で良好な整復位がえられ、2 例の術前よ
り橈骨頭の軽度変形のあった症例では、術後亜脱臼の状態であった。2 例で、軽度の回内外
制限がみられた。

結果： 尺骨骨きりを工夫をして以来、合併症なく、良好な橈骨頭の整復位が得られるよ
うになった。尺骨を延長、屈曲させることが、橈骨頭を安定した整復位に維持する鍵であ
る。